



確かな学力・豊かな心 「生きる力」の育成

小中一貫教育の推進

- ①西小倉中ブロック3校合同での学力実態分析を行い、課題を明確して義務教育9年間を見通した学力充実の取組を進める。
- ②小中の学習内容のつながりや円滑な接続に留意した授業改善や指導方法の研究実践を進め、成果と課題を明らかにしながら、小中一貫教育の実施に向けた教科、宇治学・外国語活動等の指導計画改善につなげる。

指導方法の工夫・改善充実

- ①3～6年生の算数科で、2学級を3～4グループに分けて習熟の程度に応じた少人数授業等を行い、個に応じた指導を徹底する。
- ②3～6年の国語科で、担任と加配教員が連携したきめ細かな少人数授業を計画的に進め、学力の定着状況を把握しながら、個に応じた指導を充実させる。
- ③必要に応じ、他の担任外教員や支援員が加わり、よりきめ細かな少人数指導を行ったり、授業時間外での補充学習を行う。
- ④1・2年生では、必要に応じていきいき支援員や担任外教員が入りチームティーチングや必要な児童への個別支援を行う。

特別支援教育の充実

- ①児童の実態を的確に把握し、必要な児童のアセスメント票及び個別の指導計画を作成し、PDCAサイクルによる支援を充実させる。
- ②いきいき支援員等を活用し、通常学級に在籍する支援が必要な児童について、保護者との理解連携を密にしなが、基礎学力の定着向上などそれぞれのニーズに応じた指導を行う。

いしすえ学習・学習習慣定着の取組

- ①いしすえ学習ワークシート等を活用し、「全校算数タイム(朝学習)」「漢字の定着学習」や休み時間・放課後、長期休業中を活用した学年補充学習を計画的に進める。
- ②チャイムと同時に学習に取り組む態度や朝学習等に自主的に行うことなど基本的な学習習慣の定着を徹底するとともに、保護者との連携を深め個の課題に応じた家庭学習を確実に出来るようにする。

的確な学力実態の把握・分析

- ①京都府基礎学力診断テスト4・6年と共に、全国標準診断的学力検査(NRT)を3・5年生で実施し、校内及び小中合同研究の場で分析して各学年等の課題を明確にし、授業改善につなげる。
- ②学期末に算数(主として数と計算領域)国語(言語領域)評価テストを行い、定着状況を把握しながら改善を進める。
- ③学期末の定着状況を「学びの記録」に記入し、次学年へ確実に引き継ぎ、いしすえ学習や個に応じた指導の充実につなげる。

地域との連携・人材活用

- ①「地域ふれあい体験活動」の取組等、地域の人々との関わる経験を通し、児童の豊かな社会性やコミュニケーション能力を育む。
- ②地域の外部人材を招いた効果的な学習を行い、豊かな体験を通じた学習の深化をはかる。

望ましい人間関係を育む活動

- ①異年齢集団による日常的な清掃活動や班遊び等の取組を通し、学年を越えた児童の望ましい人間関係や高学年児童のリーダーとしての自覚と行動力、自己肯定感を育てる。
- ②運動会や全校朝の会、児童集会等の場を有効に活用し、各学年で児童の表現力を高める集団的な実践活動に積極的に取り組ませる。

ことばの力・表現力の育成

- ①豊かな表現力の育成を柱に、「豊かな感性」「仲間を受け止める集団」「伝える力や論理的思考力」の育成に向けた指導方法や指導形態等の授業研究を進め、義務教育9年間の基盤となる国語力を育成する。
- ②「マイブック」を手元に置くなどの手立てを徹底し、朝読書の取組等により日常的な読書習慣を定着させるとともに、図書館司書・図書ボランティアと連携した読書活動の充実をはかる。

基盤となる健康と体力の向上

- ①教科連携加配教員を活用した体育授業や学年ごとの体力向上の取組を実施し、全校的な体力づくりを推進する。
- ②栽培活動等の豊かな体験活動や栄養教諭とのTTによる食に関する指導の充実を通し、学力の基盤となる「食」の大切さについての認識を高め、児童個々の望ましい食習慣を確立する。